



汎用起重機船にて港湾工事・荷役作業への貢献



- この仕事を選んだきっかけ
父が創業した会社ではありますが、中学生の頃から現場に連れられて見学しているうちに港湾関係の仕事に興味が湧きました。
- 印象に残っている仕事
昭和 58 年(1983 年)4 月に入社して直ぐに起重機船に乗船しました、荷役ではコンテナ船へ夜どうしかけてコンテナを積込んだこと
(今はガントリークレーンが整備されたので、あり得ませんが)。
工事では横浜港にあった係船浮標整備工事を任されたこと、大さん橋の撤去工事では木杭のドルフィンを撤去するのに木杭を引きちぎるしかなかったこと(現在は鋼管杭なのでもっと安全に撤去できます)、東京湾の灯標を灯浮標に交換したこと(交換後の天候の急変で事故になりかけた時は冷汗ものでした、現在は天気予報の精度が良くなっているので事前の判断ができます)
- 休日の過ごし方
テニスを 50 才から始めて今でも続けています。
家では録画しておいたドラマを観たりして身体を休めています。



起重機船アジア 8 号は、灯浮標移設や港湾土木工事の敷材運搬など、東京湾の海上工事を支えています。

 アジア海事興業株式会社

(元 オペレーター)
代表取締役 安間 一秀